

バイオマスにも 期待大

曽於市では、町ぐるみのバイオマスタウンとして、焼酎粕を畜産飼料として活用還元する構想を打ち出している。

また、垂水市で豚ふんを使ったバイオガス燃料

化事業に携わっている日本総合研究所(東京都千代田区)は、「鹿児島は北海道に次ぐ全国2位の可能性を持つ」とし、大隅半島におけるバイオガス供給プロジェクトの市場規模を約72億円相当と試算している。だが、潜在的エネルギー自給率は5～27%と推測し、「廃棄物を集めるためには地域連携が欠かせない。バイオガス利用に重要な勾いや水分を取り除く技術開発が必要」と指摘する。

自然エネルギーの需要は確実に増える。「何か糸口を」と模索する地元企業は、県外からの大手企業の進出を、どう受け入れ、生かしていけるのか。大型風力発電施設を利用した観光施設やバイオマスタウンなど、鹿児島は限らない可能性を秘めている。今後は、県外企業と地元企業、地域、行政が一体となり、地元から発信できるようなシステム構築が望まれる。

(吉元直美・報道編集
記者)